

函館山緑地 (函館市)



山頂からの眺望は日本三大夜景として知られ、国内外から多くの観光客が訪れている

軍事要塞の歴史がその自然を保存、旧軍用地からの公園緑地

1899 (明治32) 年から太平洋戦争終結まで軍事要塞として一般市民の立ち入りが禁止されていた歴史を持つ「函館山」は、戦後、函館市と商工団体の無償払い下げの陳情もあり1946 (昭和21) 年に一般開放され、1948 (昭和23) 年の国有財産法改正により無償貸し付けを受け、「函館山緑地」として都市計画決定、旧軍用地の公園化ではわが国随一の規模を誇る。

砲台跡などの軍事遺産の存在とともに、約半世紀の入山禁止により良好な自然が保たれ、更に都市計画緑地となった後も公園管理・保全の取り組みにより、約600種の植物、約150種の鳥類が分布・生息する優れた環境も評価される。

函館のランドマークとして景観を形成、「臥牛山」として市民に親しまれている一方、山頂展望台からの砂洲地形の眺望は、観光客より“世界一の夜景”とも称される視点場としての価値も有する。

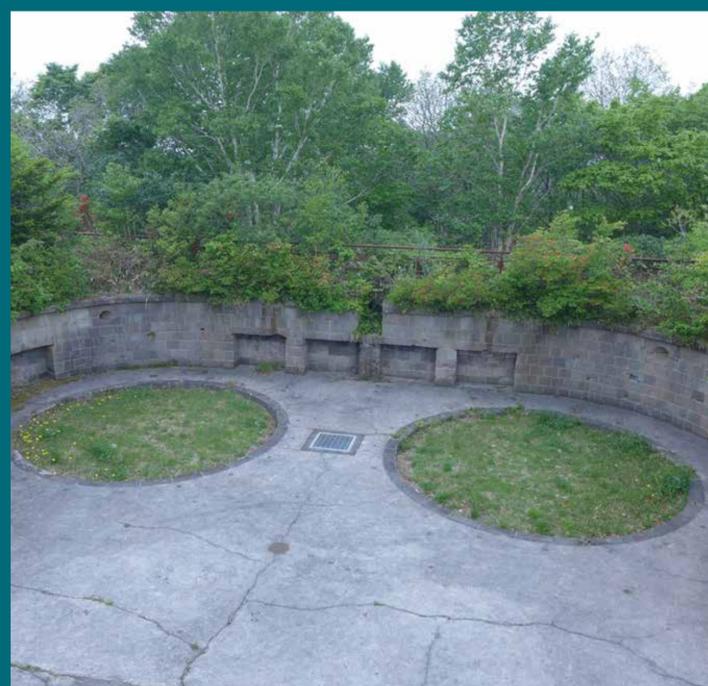


山塊の形から市民には『臥牛山』として親しまれている

概要

名称	函館山緑地
所在地	函館市
管理者	函館市
規模	327.0ha
種別等	都市公園 (風致公園)
計画決定	1948 (昭和23) 年11月
開設年	1946 (昭和21) 年10月

2001 (平成13) 年には「函館山と砲台跡」の名称で北海道遺産に選定



山頂には要塞地帯の名残が各所に残っている